

令和8年度

日章学園

# 鹿児島育英館中学校

入学試験問題

## 国語

(時間 45 分)

(注 意)

- 1 「始め」の合図があるまで、このページ以外の所を見てはいけません。
- 2 問題は10ページあります。解答用紙は1枚です。
- 3 「始め」の合図があったら、まず解答用紙に受験番号、出身小学校名と氏名を記入しなさい。
- 4 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげなさい。問題内容や答案作成上の質問は認めません。
- 6 「やめ」の合図があったら、すぐ筆記用具を置き、解答用紙だけをうら返しにして、机の上に置きなさい。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

- ① みなさんは話し上手、聞き上手になりたいと思ったことはありませんか？
- ② 世の中には、話し上手、聞き上手になりたいと思う人がたくさんいます。(A)、人間関係はそのほとんどが、「話がうまいか、聞くのがうまいか」で決まってしまうからです。
- ③ とくに仕事の場面では、最初に相手にどう接するかによって、その仕事がゲットできるかどうかが決まっています。第一印象で、「この人は信頼できる人だなあ」とか「面白そうだ」とか「しっかりしていそう」という印象を相手に与えると、次も会いたいと思ってもらえます。すると、自然と仕事のチャンスが回ってくるわけです。
- ④ 最近ではインターネットの取引など、パソコンでのやりとりが多くなっていますが、むしろその分、<sup>①</sup>生のコミュニケーション能力<sup>②</sup>が大きな影響力を持つことを忘れてはいけません。
- ⑤ 実際に顔を合わせてやりとりする場面を考えると、たった一回の面談でもその人の本質が見えてしまう、もしくはは見えない気になってしまうことが多いと思います。面と向かって会うと、パソコン上でやり取りするより数多くの情報が行き来します。で、その人がどのような人柄で、どのような経験を積んできたのかということが、何となく推し量られてしまうからです。
- ⑥ (B) 聞き上手になってくると、ちよつとした言葉の端々や言い方から、その人が今まで蓄積してきた経験を推測できるようにになります。上級レベルになると、シャーロックホームズがわずかな痕跡から人物像を作り上げていくように、ひと言ひと言から「この人が大事にしているのはこれだ」とか「これが好きらしい」とか「こういうところが苦手である」ということを聞き取って、人物像を構築していくことができます。
- ⑦ このように話し上手、聞き上手になると、仕事だけでなく、友人づきあいや恋愛関係でも確実に楽しみが増えてきます。なぜ学校でこの技術をもっと本格的に教えないのか、私は不思議でなりません。
- ⑧ 一般に、私たちは自分が話すのは好きですが、人の話を聞いてみると気が散ってしまうことが多いように思います。特に話好き<sup>②</sup>な人は、聞く側に回るのが苦手なので、他人が話し始めたとき、そこに割り込んで話を取ってしまう傾向が見られます。

9 相手はせっかく自分の話をしているのに、話題を横取りされてしまうわけですから、非常に興ざめしてしまいます。こういう人はボールゲームでいうと、ボールを持ちすぎてしまう人、人にパスが回せないタイプということになります。すると「あの人と一緒にゲームをやるよ、ボールをまわしてくれないから嫌」というふうには、敬遠されてしまいます。バスケットやサッカーではよくあることですね。

10 それと同じことが、実は会話でも起こっています。 I みなさんも心当たりがありませんか？ 私は授業な

どで話しすぎる人が多いときは、実際にボールを手を持って話してもらおうようにすることもありません。話し終えると、他の人にボールを渡す。今度はボールをもらった人が話すわけです。すると、自分がボールを持っている時間や、人がボールを持っている時間の長さが何となくわかってきます。自分はこんなにもボールを持ちすぎていたのだということが、文字通り身体的にわかるわけです。

11 (C) このコミュニケーションの基本技である時間感覚が普通はなかなか身につきません。本当は人と人とのコミュニケーションを楽しんだり、人間関係を上手く構築していったりするために、コミュニケーションの技は絶対に必要なのに、訓練する機会がなかなかありません。

(齋藤 孝『話し上手 聞き上手』)

問一 (A)・(B)・(C)に入る言葉として適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア そして      イ しかし      ウ すると      エ たとえば      オ なぜなら

問二 ー線①「生のコミュニケーション能力」が大きな影響力を持つ」のはなぜだと筆者は考えていますか。その理由をまとめた次の文章の ( ) に当てはまる言葉を文章中から抜き出し、答えなさい。

\*面と向かって会うとパソコン上でやりとりするより ( ) を得ることができるから。

問三 ー線②「そこ」とは、何を指していますか。文章中の言葉を使って五字以内で答えなさい。

問四 I に入る文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ボールを持ちすぎて他人にパスを回さず、人から嫌いやがられたり嫌きらわれたりしてしまうわけです。

イ 話しすぎる人は自分でも気付かぬうちに、人から嫌いやわれていたり、周囲に迷惑わづをかけたりにしているわけです。

ウ 話している途中で別の話題に切り替えて、相手を困らせたりに考えさせたりしてしまうわけです。

エ 聞き上手の人は、相手の話に合わせて、あいづちをうったり、うなずいたりして話しやすくしているわけです。

問五 ー線③「私は授業などですることもありません。」とあるが、どうしてそのようなことをするのですか。その理由を「く

から。」と続くように文章中から四十字以内で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

問六 形式段落③・⑦の役割として適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 問題提起をする役割

イ 前段の内容に対して、具体的な例を挙げる役割

ウ 前段の内容をわかりやすくまとめて、次の段落へつなぐ役割

エ 文章全体をまとめ、結論を述べる役割

オ 前段とは反対の立場を述べて、主張を強める役割

問七 この文章の見出しを次のようにまとめました。( ) に入る言葉を文章中から抜き出し、答えなさい。

「話し上手、聞き上手は ( ) 構築に必要な技」

問八 もし、あなたが自分の好きなもの(人)というテーマで話をするとしたら、何をどのように話しますか。次の条件に従い書きなさい。

条件 ① 二段落構成で書く。名前や題名を書く必要はありません。

② 一段落目にあなたの好きなもの(好きな人)を書く。

③ 二段落目にその理由やそのもの(人)の魅力、具体例を入れながら書く。

④ 原稿用紙の使い方に従い二百字以内で書く。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(主な登場人物)

- ・ 武人 (たけと タケと呼ばれる)
  - ・ 竜也 (たつや あだ名はヒシャ)
  - ・ 美穂 (みほ)
- } 小学6年生 同級生 (幼なじみ)
- ・ 節バア (武人たち三人より前に、この時代に入り込んだ人)
  - ・ ノチ (美穂の婚約者になった村の少年)

小学校生活最後の夏休み、武人と竜也、美穂の三人は、村のおじいさんから聞いた、森の奥の洞窟へ、一泊二日の探検に出かけた。洞窟で冒険を楽しんだその夜、急に洞窟内がゆれはじめ、ずっと昔の時代(縄文時代らしいところ)にタイムスリップした。その翌日、わなにかかっている小ジカを助けたが、その時代の村人に発見されてしまい、集落に連れて行かれた。そこには、先にタイムスリップした節バアもいた。そして、村人と一緒に数日過ごし、クマ狩りに武人と竜也は参加することになった。

翌朝、朝食をすませてから広場に行った。男たちは手に手に、先端をとがらせた槍のような竹棒を持っていた。みな、肩から袋を下げていた。子どもたちもいた。その中に、ノチもいた。男たちは、子どもたちに、太くて短い竹の筒と、細い棒を手わたした。武人と竜也もわたされた。節バアが、「男たちが手を上げたら、その竹筒をたたけ」と、武人と竜也に教えた。

「オマエたちは、勢子になるんじゃない。男たちの後ろで、大声をあげて、クマを追いだす役じゃ。ほかの子どもたちと同じように、大声をあげていりゃいいづら。決して男たちの前に出たり、はなれたりしてはいけない。タケは、《木遣唄》のように大きな声で歌うがいい」

男たちの中でひとりだけが、はちまきのような冠をかぶっていた。武人は、兄ちゃんぐらゐの年齢だと思った。槍を持つうで

は、筋肉きんにくがもりあがっていた。クマ狩がりのリーダーらしい。

十四人の大人と五人の子どもは、東側にむかう道を進んだ。しばらく行くと、谷川に出た。男たちは、肩から下げた袋に、野球ボールほどの石をたくさんつめた。川をさかのぼっていくと、大岩が数個組みあい、川幅かわはらがせばまったところがあった。水は轟音ごうおんをたて、左右の大岩を洗いながら流れていた。岩の上に丸太が三本わたしてあった。

三本の丸太は、橋だった。つたで何重にもしぼられていた。それをわたると、森の奥にむかって道がのびていた。三十分も歩いただろうか、道はずれ、森に入った。男たちは、鼻をクンクンさせて、あたりのにおいを（A）のようにたしかめていた。その先には、三階の屋根ほどの高さの、垂直な崖がけがあった。男たちは、崖の上を指さし、口々に話していた。崖の上にクマがいるようだった。

（中略）

ひそんでいた男たちが、いっせいに立ち上がり、奇声きせいを発して歩きだした。ノチが、竹筒をたたいた。武人も竜也もまねた。反対側から登った組の、喚声かんせいと竹筒の音が聞こえてきた。おどろいた鳥が、バサバサと飛び去った。

声をあげながら、少しずつ進んだ。そのとき、「ウオー」とさげぶ、クマの声が聞こえた。やぶの中に立つ、クマのすがたが見えた。初めて目にする野生のクマに、武人も竜也も身②をすくませた。

二人の男が、クマの突撃とつげきから身を守るように、竹槍を水平にかまえた。クマは、べつの方向からの声にも気づいたらしい。武人たちにむけていた体をまわし、せなかを見せた。そのとき、二人の男が、クマのせなかをめがけて石を投げた。クマは、すぐにふりかえった。するとこんどは、むこう側から石が投げられた。クマは、両方からの石の攻撃こうげきに、どちらに反撃していいのか迷っているらしい。体のむきを、むこうとこちらにせわしく変えた。クマは結局、崖の方向にむかって走った。男たちは、奇声きせいをあげながら追いかけて、石を投げつづけた。

④ 男たちは、ササの生いしげったやぶの中を、とびはねるように走った。走る男たちのすがたを、竜也は（B）のようだと思った。思ったしゅんかん、枝に足をとられてころんだ。武人が手をのばして、たすけ起こした。

クマは、崖をとびだし、宙に舞まった。崖のふちに近づくと、崖下の岩の上にクマが横たわっていた。そのクマの体に、下で待っ

ていた男たちの竹槍が、何本もつきささっていた。リーダーの若者は、クマの体の上に立ち、天にこぶしをつきあげ、まるで（C）のようにほえた。崖下を見おろした男たちも、声をあげた。武人も竜也も、とびはねた。

クマは丸太にしばらく、前後を三人ずつの男にかつがれた。村にもどると、女たちが踊り、歌ってむかえた。

長老は、台の上へのせられたクマの前でひざをつき、手をあげて、呪文じゆもんのような言葉をつぶやいた。クマはすぐに解体され、節バアの家にも、大きなかめに入った肉が届けられた。武人と竜也は、クマ狩りのようすを、身ぶりをまじえて美穂に話した。美穂は、「見たかった」と、くやしがあった。

⑥ 「……すき焼きみたい」

美穂が、鍋なべの肉を口にしていった。

「馬肉より、うまいや」

武人たちが住む地方では、牛肉より馬肉がこのまれる。武人も満足気にいった。

「……それにしても、タケもヒシャも、よくクマ狩りにいく決心がついたものだなあ……。二人の勇氣に、ワシは頭が下がる。あぶないことをさせてしまって、すまなかったのう……」

節バアが、武人と竜也にむかって居住まいを正すと、いった。

「いや、そんなじゃないんです。オレたち、けがの手当てをしてくれ、こうして、食べる物まであたえてくれる、この村の人たちに、いつか、何かお礼をしなければならぬと思っていたんです。だから……。なあ、ヒシャ」

「うん。……さすがに、あのクマには、ちょっとビビッたけどね」

武人と竜也が、笑いながらうなずきあった。美穂は、この二人を友だちにもてたことを、ほこらしく思った。

「おお、そうか、そうか……」

節バアはうれしそうにうなずくと、竜也のおわんにクマ汁のおかわりをよそった。

「あーっ、……オレたち、まちがっていたのかな？」

③ 竜也が、すっとんきような声をあげた。

「どうした、ヒシャ」

武人が、びっくりして聞いた。

「……あのさ、オレたち、腹がへったといって、イワナをとって食べただろう。だけど、ワナに落ちた子ジカを見て、かわいそうだといって逃がした。でも、こうして、クマの肉はうまいといって、食べている。……クマを襲うときは、こわかった。けれど、かわいそうだとは思わなかった。……これって変じゃねえか？」

武人は、竜也のいうことはもつともだと思った。

「そうだなあ。たとえば、この鍋がクマ肉ではなくて、シカ肉だったら、平気で食べられるかな……」

武人が、竜也と美穂を見た。

◎ 「あの、かわいい目を思い出しちゃうと、食べられないかもね」

美穂も、考えこんだ。節バアは、そんな三人のやりとりをながめていた。

「この村の人たちにとって、山や川にすむ生きものは、みんな食べものなんだよ。さっき、ふと気がついたんだ。だから、オレたちが、かわそうだって逃がした子ジカも、この村の人たちにとっては、大切な食料なんだ。オレたちのこと、おこるはずだよ……」

◎ 竜也は、自分の考えを話した。

「ヒシャ、おまえ、いいことに気がついた。そりゃー、この村の者にとって、森や川に生きるものは、どれもごちそうだわな。植物もさ。みんな食料だからさ……」

そうやって、節バアが、竜也に笑顔を見せた。

武人たちの世界では、動物の生きているようすを、あまり見ることがなくなっている。見ているとしても、動物園であったり、ペットか、ほとんどは、人間の食料のために飼育された家畜としてだろう。多くの人にとって、魚や肉といえば、店で売っている商品のことだ。そして、それを買って食べている。ひとりひとりが、自分が食べるものをとったり、飼育することはできないからだ。だから、それは専門の人が代わりにやっている。

この村の人たちは、森に生きている動物を、直接自分たちでとってくる。だから、生きものの命をいただいて、自分が生かされていくことを、子どものうちからみんなが知っているのだ。

「……それで、とった生き物は、<sup>④</sup>むだなくいただく。毛皮も大切に利用する。骨だって、釣り針やぬい針に加工するんだ。」  
節バアが、自分もこの村の一員のような口ぶりで、いった。

武人と竜也の足に、たくさんすりきずがあるのを知ると、節バアは、クマの肉から脂身あぶらをそいで、きずにぬってくれた。

「これで、明日は、きずも治っているづら。クマの脂は薬きもさ。肝きもだって、胃腸の薬になる。殺されたクマは、ムダになるものはひとつもねえづら。」

満腹になった三人は、炉端ろばたのまわりで、うとうとしはじめた。

(荒川じんぺい『夏の洞窟』)

問一 — 線①「勢子」とは、クマ狩りの中でどのような役割を言うのですか。勢子について説明している部分を文章中から十五字で抜き出さない。

問二 (A) (B) (C) に入るのに適当な動物を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

あ クマ      い イヌ      う シカ      え ネコ      お へビ

問三 — 線②「身をすくませた」とありますが、これは武人と竜也のどんな様子が表現されていますか。次の文章の( )に当てはまるように適当な言葉を考えて答えなさい。

初めて目にする野生のクマに( )を感じた様子。

問四 クマを仕止めて、武人と竜也が興奮した様子を表した一文を、文章中から抜き出し、答えなさい。

問五 — 線③「すっとんきょうな声をあげた。」について以下の問いに答えなさい。

(1) 「すっとんきょうな声」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すべり落ちていくような声      イ カの鳴くような小さい声      ウ さけぶような大きな声      エ 調子はずれでまぬけな声

(2) どうして、このような声になったのでしょうか。その理由として次の文章のように考えました。(ア) (イ) (ウ) に当てはまる言葉を文中から抜き出し、それぞれ七字以内で答えなさい。

以前、自分たちは、村の男たちのわなにかかった子ジカを、(ア) (イ) からと助けたが、今、自分たちがおいしいと言って食べているクマの肉も、どちらも村の者にとっては同じ(イ) (ウ) で、子ジカをにがしたのは(ウ) (イ) のではないかと急に気がついたから。

問六 この文章は大きく二つの場面に分けることができます。後半の始まりは、文章中の(A)・(B)・(C)・(D)のどこが最も適当ですか。記号で答えなさい。

問七 ー線④「むだなくいただく」について、この文章で実際にクマの命を無駄なくいただいていることがわかる節バアの行動を探し、その一文の最初の七字を抜き出し、答えなさい。

三

次の問題に答えなさい。

(1) 次のー線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みがなに直して答えなさい。

- ① コンナンな任務を引き受ける。
- ② ゼツコウの機会を得た。
- ③ 台風にソナえる。
- ④ 小学生がタイシヨウの本。
- ⑤ 不足を補う。
- ⑥ 生徒を率いる。

(2) 次の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。また、総画数を数字で答えなさい。

建

部首名（ ） 総画数（ ）

四

この文章は、中学一年生の太郎さんが、地域で行われたボランティア活動について書いた作文です。この文章には、いくつかの間違<sup>ちが</sup>いや不適切な部分があります。これを読み、後の問いに答えなさい。

① ぼくがこの夏に参加したボランティア活動は、公園の清そう活動をしました。朝早く集合するのは大変だったけど、参加して本当に良かったと思います。

② 公園には、お年よりから小さな子供まで、たくさんの方が集まっていました。最初はみんなきん張していたのか、少し気まずいふんいきでした。しかし、活動が始まると、お互いに声をかけ合い、協力してゴミ拾いをするようになったのです。作業が終わるころには、公園はとてもきれいになり、ぼくの心もすがすがしい気持ちになった。

③ リーダーの方が申された、「皆さんの協力のおかげです」という言葉が印象に残っています。ぼくは、この活動を通して、協力することのすばらしさを実感することができました。

問一 形式段落①の文には、主語と述語の関係が正しくない「主述のねじれ」という間違いがあります。どのように修正すれば、意味の通る正しい文になりますか。修正後の一文を書きなさい。

問二 この作文では、ていねいな言葉づかいの「です・ます調」と、くだけた表現の「だ・である調」が混在しています。「だ・である調」で終わっている文を一つ探し、「です・ます調」に直し、その一文の終わりの十字を書きなさい。(句読点含む)

問三 この作文には、敬語の使い方が正しくない文があります。その文を探し、初めの五字を抜き出し、答えなさい。